

## 17番 米永 あつ子 議員

## 1 福祉のまちづくりについて

- (1) 障害者手帳は現在、紙製で交付されているが「肌身離さず所持しているため汗などで文字がにじむ」や「破れやすい」「利用する際に取り出しにくく手間もかかる」などといった不便さを耳にする。それらの解消と利便性を高めるために障害者手帳のカード化又は手帳代わりに使えるスマートフォンのアプリ等の活用などについて見解を示されたい。
- (2) 車いすの方やお年寄りの方も含め、だれもが利用しやすいように、自動ドア・スロープ・手すり、車いす使用者用トイレや駐車場の設置、バス停などのベンチ作成費など、様々なバリアフリー化への整備に対し、個人や商店を対象にした国の改修費一部補助制度を活用して、鹿屋市全体バリアフリー化に向けて取り組む考えはないか。

## 2 鹿屋市における有機農業推進について

- (1) 国は「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに化学農薬 50%削減、化学肥料 30%削減、有機農業割合を 25%に拡大する KPI を掲げ、2030年の目標として有機農業者を 36,000 人、取組面積 63,000 ヘクタールと設定した。本市の有機農業に取り組む農業者数などの現状について伺う。
- (2) 持続可能な農業や環境保全のためにも有機農業の更なる支援が必要だと思うが、本市における有機農業者数の目標数や拡充のための支援などの計画を示されたい。
- (3) 有機農業を生かし、地域振興につなげるための消費拡大や農業経営安定への計画があるのか問う。
- (4) オーガニック給食についての見解を述べられたい。

17番 米永 あつ子 議員

3 広報事業体制について

- (1) 鹿屋市の情報発信源である「広報KANNOYA」について、デザイン刷新を始め、記事の内容についても市民に光を当てたものや市の課題など、新しい視点や情報を得たり、クリエイティブな刺激ある紙面づくりの努力が評価されている。これまで読んでこなかった層にも手に取ってもらえるようになっていると感じている。より多くの人に情報発信できるように市内のコンビニ等でも設置できないものか問う。
- (2) 安全安心課からの防災無線放送の音声は「雑音が入りすぎて内容が聞き取りにくい」という声を受ける。改善できないか問う。

4 日米地位協定について

- (1) 感染対策防止策として在日米軍司令部が発令した公衆衛生緊急事態宣言を踏まえ、鹿屋基地に関係する米国の軍人の新型コロナウイルス感染症の発生状況や米側の措置について積極的公表は可能か。
- (2) 日米地位協定の改定に向けた本市の取組姿勢について具体的に示されたい。